

ふるさと福島に安心して暮らせる 環境づくりを目指して

イメージ



県内では、平成24年1月に本格施行された「放射性物質汚染対処特別措置法」に基づき、除染の推進を「復興の大前提」と位置づけ、取り組んでいます。

これまでに、平成25年度までの計画数に対して、除染の実施数・実施率は9月末時点で公共施設が70.3%にあたる4,062施設、住宅の除染の実施も累計で58,000戸を超えるなど、国や市町村などと連携しながら着実に進めています。

国は、2年間で除染を完了するとしていた目標を改め、個々の市町村の状況に応じ、除染の進め方を見直すことを発表しました。

田村市では、除染実施計画に基づく除染は終了し、檜葉町、川内村及び大熊町では、平成25年度内の完了を目指しています。南相馬市、飯館村、川俣町、葛尾村、浪江町及び富岡町は、年内を

国直轄除染地域の方向性

福島県内のこれらの地域について、①は国が、②は市町村が主体となって、追加被ばく線量を年間1mSv以下に引き下げることを長期的な目標に除染を行っています。③の地域にある局所的な汚染に対しては、市町村や自治会などが主体となって除染を推進しています。

- 1 帰還困難区域、居住制限区域もしくは避難指示解除準備区域等を含む地域(国直轄除染地域)
- 2 放射線の年間追加被ばく線量が1mSvから20mSv未満の地域
▶市町村毎の進捗状況は裏面をご覧ください
- 3 放射線の年間追加被ばく線量が1mSv未満の地域

除染の対象地域

福島第一原発事故の放射性物質によって汚染された地域は、大きく次の三つに分けられます。

ふくしまの
今が分かる
新聞

vol. 13

2013年11月11日

発行：福島県避難者支援課 ☎024-523-4157

※この広報誌は「クウェート救援金」を財源として発行しています。

福島県が発行する「ふくしまの今が分かる新聞」では、県内に居住している皆様、福島県内外に避難されている皆様、そして被災者・避難者支援に携わる多くの皆様へ、避難者支援の状況や福島復興への動きなど「今ふくしまが何をを行っているか」が分かる情報をお届けします。

目処に計画の変更を行う予定です。双葉町では、計画の策定に向けて、協議が進められています。

また、除染実施後には必要なモニタリングを行い、除染の効果の維持を確認するとともに、新たに汚染が特定された地点等があった場合は、線量等にに応じてフォローアップ除染が行われます。

●除染等工事の進捗状況(実施率※) 平成25年10月4日 環境省公表

	田村市 (6/30時点)	檜葉町 (9/5時点)	川内村 (9/2時点)	飯館村 (8/31時点)	川俣町 (8/30時点)	葛尾村 (8/31時点)	大熊町 (8/31時点)
宅地	100%	58%	100%	4%	1%	4%	3%
農地	100%	69%	10%	2%	7%	0.1%	11%
森林	100%	70%	76%	3%	8%	33%	11%
道路	100%	41%	100%	0.6%	0%	1%	6%

※実施率…分母は当該市町村が定める除染対象地域の面積等、分子は一連の除染行為(除草、堆積物除去、洗浄等)が終了した面積



住宅除染の効果

福島市では平成23年10月からの2年間で、市民の日常生活環境における空間放射線量率を市内全域で1μSv/h以下にするとともに、将来的に推定年間追加被ばく線量を1mSv(0.23μSv/h)以下にすることを目標に除染を進めています。

単位: μSv/時

	室内1階(測定高:1cm)	室内2階(測定高:1cm)	雨樋(測定高:1cm)
除染前	0.30	0.39	2.17
除染後	0.17	0.25	0.58
(低減率)	43%	36%	49%

	玄関	1cm	1m	庭中央	1cm	1m
除染前	0.32	0.64	0.94	0.94	1.18	
除染後	0.13	0.36	0.21	0.21	0.50	
(低減率)	59%	44%	78%	78%	57%	

※平成25年1月にまとめた渡利第1次分(717戸)の住宅モニタリングの平均値。

	除染前 平成23年 11月～12月	除染直後 平成23年12月～ 平成24年4月	第2回追跡調査 平成25年3月	
大熊町	夫沢地区	38.89～146	7.10～91.25	7.15～64.50
	役場周辺	4.11～18.95	2.97～9.55	1.46～6.54
浪江町	津島地区	5.68～12.10	1.41～6.14 ^{※1}	1.70～5.00
	権現堂地区	2.47～8.41	1.20～4.20	0.93～2.65
富岡町	夜の森公園	6.35～13.27	1.96～7.97	1.63～4.66
	富岡第二中学校	2.18～9.74	0.61～2.88	0.56～2.25
飯館村	草野地区	1.62～5.88	0.38～2.96 ^{※1}	0.67～3.12
	ハヤシ製作所	1.72～7.65	1.53～6.20	0.83～1.96
	いいいてホームいちはん館	1.96～4.25	1.33～2.92	0.79～2.56
川内村	菊池製作所	1.43～3.94	0.35～2.70	0.30～2.63
	貝の坂地区	1.84～3.62	1.28～3.95 ^{※2}	0.93～2.85
葛尾村	役場周辺	0.91～1.98	0.53～2.20 ^{※2}	0.37～1.36
	金房小学校周辺	0.68～1.73	0.22～1.45	0.20～1.09
檜葉町	南工業団地	0.23～0.64	0.15～0.60	0.15～0.37

→表の線量はモデル事業を実施した地区毎に10～30点程度を測定し、線量が最も低い数値と高い数値を記載した。
※1 積雪による遮蔽の影響で除染直後の数値が低めに出ている。
※2 線量計の性能により10%程度の誤差が生じる場合があり、除染前と比較して上昇しているように見える。

調査結果から
○除染実施後から直近の調査までの空間線量率の推移をみると、全ての地区で平均的に空間線量が減少しており、除染の効果はおおむね維持されています。
○調査地区の平均値で見ると、除染モデル事業により空間線量率が6割程度減少し、その1年後には除染後の数値よりさらに約25%減少していたことが分かりました。
▶今後も定期的な調査が実施され、引き続き除染効果の確認等が行われることになっています。

除染モデル実証事業後の空間線量の推移について

国では、除染実施後の空間線量の推移を把握し、除染効果が維持されているかどうかを確認するため、平成23年度に除染モデル実証事業を行った地区を対象に、空間線量率を追跡して、除染直後の結果と比較しました。

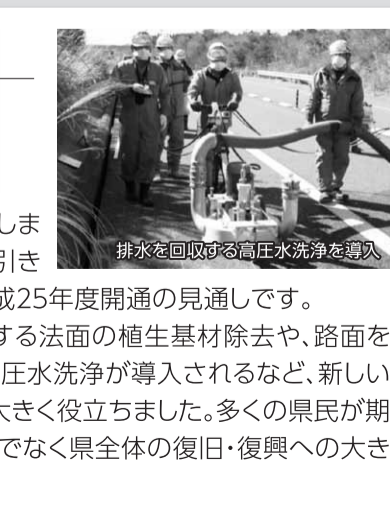
除染モデル実証事業対象地区の位置

開通に向けた除染作業

常磐自動車道の開通が福島復興の推進力となる

常磐自動車道の除染作業が今年6月に完了しました(仮置場の整備、除染後モニタリング等は引き続き実施)。まず広野ICから常磐富岡IC間で平成25年度開通の見通しです。

今回の除染作業で、作業員の安全性を確保する法面の植生基材除去や、路面を高圧水で洗浄し、排水を吸引回収する回収型高圧水洗浄が導入されるなど、新しい技術を開発・活用したことも作業を進める上で大きく役立ちました。多くの県民が期待を寄せる常磐自動車道の開通は、浜通りだけでなく県全体の復旧・復興への大きな推進力となるでしょう。



都路地区で灯まつり開催

故郷への思いが帰還への大きな力となる

今年6月に除染が終了した田村市の都路地区では、8月3日、「都路灯まつり」が開催されました。平成15年に「都路の名を残す祭り」と、旧都路村の住民有志が始めた地域の夏祭りです。

夕刻、住民やボランティアにより点火された約一万本の竹灯の炎が揺れ始めると、その幻想的な風景に多くの来場者が魅了されました。灯まつり実行委員長を務める坪井都一さんは、「祭りをきっかけに、ひとりでも多くの住民が気持ちを新たに、帰還に前向きになることを願っています」と話しました。

都路運動場で開催された灯まつりの様子

このレポートのバックナンバーは
除染情報プラザ 福島再生
検索

除染を通して地域の再生に取り組む
皆様の活動レポート

